

芦屋室内合奏団

春のバロックコンサート



世界文化遺産 ドイツ「バンベルク」

日本盛 酒蔵通り煉瓦館
2001年3月25日(日)

第1回公演 14:00 ~

第2回公演 16:00 ~

日本芸術文化振興会
芸術団体等基盤整備事業

◎ごあいさつ

1965年、当時の神戸大学、甲南大学等の学生オーケストラの首席奏者達が芦屋市浜町の故橋本宗夫氏宅に集まり、以来35年間に亘って弦楽アンサンブルの活動を続けてまいりました。皆様から常々もっと発表の機会を増やしてはどうかとのご意見も頂いていましたが、昨年末から年始にかけてドイツのバンベルクとドレスデンの演奏会でご好評を頂き、また文化庁の助成もいただけることにもなり、春のバロックコンサートを開催することに致しました。これからも皆様に愛される合奏団をめざしてアンサンブル活動を続けていく所存でございます。あらためて皆様のご声援に深く感謝致します。

2001年3月 芦屋室内合奏団 団長 青柳 良
団員 一同

～ プ ロ グ ラ ム ～

1. A. コレルリ 「合奏協奏曲 Op. 6 - 8」

I. *Vivace - Grave* II. *Allegro* III. *Adagio - Allegro - Adagio*

IV. *Vivace* V. *Allegro* VI. *Largo*

2. J. S. バッハ 「ブランデンブルク協奏曲 Nr. 3 BWV 1048」

I. *Allegro moderato* II. *Adagio* III. *Allegro*

～ 休憩 (15分) ～

3. J. S. バッハ 「管弦楽組曲 Nr. 2 BWV 1067」

I. *Ouverture* II. *Rondeau* III. *Sarabande* IV. *Bourrée*

V. *Polonaise* VI. *Menuett* VII. *Badinerie*

フルート独奏 小模周一

◎指揮者 酒井睦雄

桐朋学園高等学校音楽科を経て1971年桐朋学園大学卒業。指揮を斉藤秀雄、秋山和慶両氏に、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F.フックス各氏に師事。71年より相愛オーケストラ指揮者、77年ザルツブルクにてO.スイトナー氏に師事。同年、東京にてS.チェリビダッケ氏のゼミナールに参加。現在、相愛大学教授として音楽専門家の育成にあたる。また、74年より芦屋室内合奏団音楽監督、岐阜交響楽団常任指揮者、90年より高知室内管弦楽団指揮者をつとめる等、アマチュア合奏団の発展にも尽力。

◎フルート 小楨周一

千里市民管弦楽団所属。神戸高校管弦楽団、京都大学交響楽団にて首席フルート奏者を勤める。現在は会社勤めの傍ら博物館、病院での演奏会などに精力的に活動中。

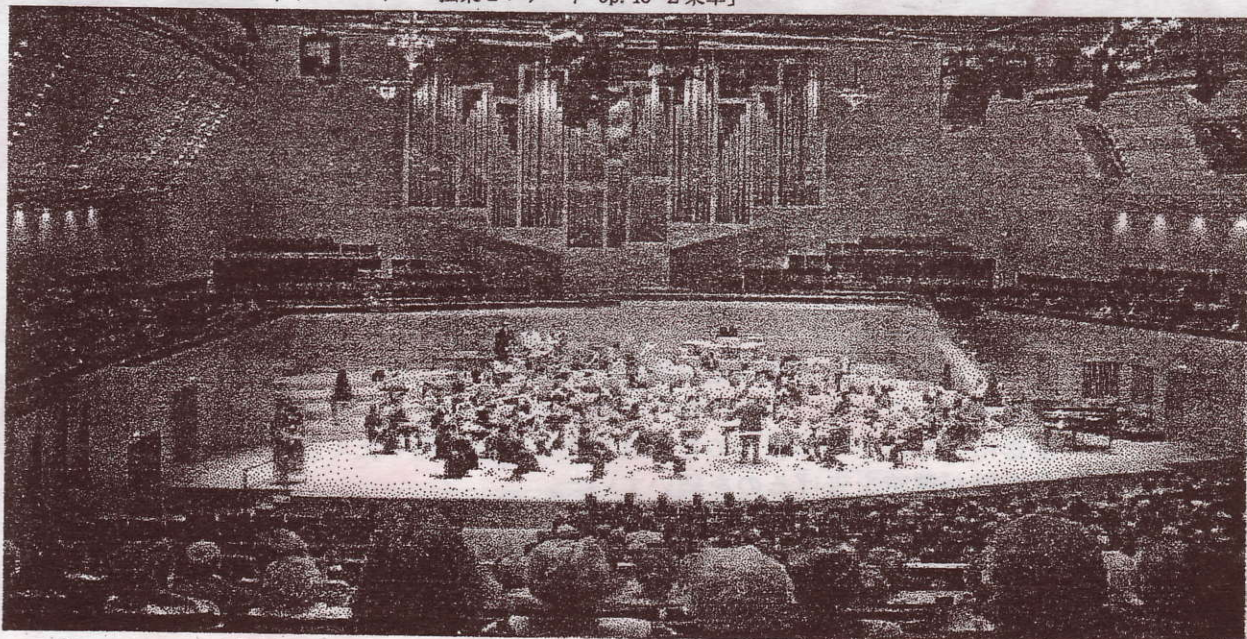
常々その風貌と楽器のイメージとのギャップに耐えながら美味しい打ち上げのお酒を飲みたい一心で演奏活動に励んでいます。白石孝子氏、(故)林リリ子氏に師事。

◎芦屋室内合奏団

音楽監督	: 酒井睦雄	Vn:	鳥丸安雄	播磨純一	藤本恭子	中田久仁子	三瓶政一
団長	: 青柳良		福永千江子	青柳良	黒川美恵子	阿部卓也	児玉七恵
コンサートマスター	: 鳥丸安雄	Va:	福永精一	河野建一	竹村久美子	高橋由伸	
マネージャー	: 福永精一	Vc:	鳥丸直子	宮崎晴夫	嶋田輝史		
部長	: 中田和夫	CB:	中田和夫		Cembalo:	小津久子	

~~~~~ ドイツでの演奏会 ~~~~~

- 2000.12.31 パンベルク ガンゴルフ教会 "ジルベスターミサ" 指揮: 酒井睦雄
・ J. S. バッハ 「2つのヴァイオリンのための協奏曲」 ヴァイオリン独奏: 福永麻里、板谷真以子
2001. 1. 1 パンベルク コンサートホール "ニューイヤーコンサート" 指揮: 酒井睦雄, * Karl Berberich
・ チャイコフスキー 「弦楽セレナード Op. 48」
・ 久保陽子編曲 「日本の歌メドレー」
・ J. シュトラウス 「ラデツキー行進曲」 *
2001. 1. 3 ドレスデン フラウエン教会 "落成記念コンサート" 指揮: 酒井睦雄
・ J. S. バッハ 「2つのヴァイオリンのための協奏曲」 ヴァイオリン独奏: 福永麻里、板谷真以子
・ 久保陽子編曲 「日本の歌メドレー」
・ チャイコフスキー 「弦楽セレナード Op. 48 2楽章」



<ドイツ旅行記>

12月29日。私たち一行26名を乗せたバスがバンベルク市内に入る頃、外はうっすらと霧がかかった静かな夜になっていた。

家々の窓や木には、シンプルなイルミネーションが灯されている。クリスマス・シーズンのさりげない演出だ。私たちは今、ドイツにいるのだ！ そんな実感が、急激にわいてきた。

バンベルク特産のスモークビールで長い移動の疲れを癒し、翌朝から早速市内観光に繰り出す。時差ボケも寒さも何のその、女性陣は写真に買い物にと大はしゃぎ、男性陣は目抜き通りの屋台で温かいワインを注文し、昼前から赤い顔をしてご機嫌だ。あの～このあと、練習なんですけどーそんな無粋な言葉は、言わぬが華というものだろう。

最初の演奏会は大晦日。バンベルク最古の教会、聖ガンゴルフ教会でのミサだ。祭壇を彩るクリスマスの飾り、聖歌隊の子供たち、祈りを捧げに集まる市民。敬虔な信仰心に満ち満ちた空間であるが、現実はまだもう寒い。待ち時間のうちにどんどん冷えていく指先をなだめつつ、バッハのドッペルコンチェルトを演奏した。暖かい拍手とパイプオルガンの奏でるバッハに送られて教会を出ると、その足でバンベルク交響楽団のジルベスターコンサートへ。終演後、慌ただしく年越し蕎麦ならぬ年越しパスタを食べる頃には21世紀は目前に迫っていた。

さて、カウントダウンである。ホテルのダンスパーティーなどには目もくれず、若者たちがお酒を片手に花火を上げ、爆竹を鳴らして大騒ぎしている地区に乗り込むことにした（もちろん、自分たちが投げる爆竹は事前にちゃんと仕入れてある）。そこはもう無法地帯。頭上で炸裂する花火をぼかんと眺めている間に、足下を爆破されそうになったりする。こちらにも負けじと爆竹に次々と点火する。もうもうたる煙と轟音の中で、いつの間にやら年が明けたらしい。ひときわ激しく、夜空を花火が埋めた。

新年最初の演奏会は、独日協会主催のニューイヤーコンサート。立派なホールに大入りのお客様、そして何より、一緒に弾いてくださったバンベルク交響楽団の方たちにパワーをいただいた。芦屋らしからぬ（失礼！）落ち着いた演奏に仕上がったのは、彼らの「地に足のついた」音楽を共有させていただいたお陰であろう。この時のチャイコフスキーのセレナーデは、手前味噌ながら名演！ホールは酒井先生への惜しめない拍手に包まれ、私たちにとっても大きな財産になった。夜は独日協会の会長、ディルクス氏の自宅でパーティー。バンベルク交響楽団の方たちも顔を出して下さり、メンバー入り乱れてアンサンブルを楽しんだ。言い古されている言葉ではあるが、やはり音楽に国境は、ない。

1月2日。冷たい雨の降る中、バンベルクに別れを告げ、一路ドレスデンへ。

旧東ドイツに入ると、街の雰囲気はどこか違ってくる。工事中の地帯も多く、街がこれから変わろうとしている、という印象を強く受ける。ドレスデンは空襲で失われた街並みを厳密に再現しようと試みている街だ。だから古めかしいづくりの建物も、内部は意外にびかびかだったりして、どこかしら違和感を覚える。そんな中、現在再建工事真っ只中なのがフラウエン教会。石に一つ一つ番号を振り、組み立てていく、途方もない作業が行われている。全てが完成するまではまだ何年かかるそうだが、すでにできあがっている地下のホールが、私たちの演奏会場である。1月3日、ここでドッペルコンチェルトと日本の歌メドレーを演奏。これで全ての演奏スケジュールが無事に終わった。

気がつくと最後の夜だった。プッチーニのオペラを鑑賞したあと、ふらふらと散歩に出た。橋を渡り、エルベ川の対岸から旧市街地を臨む。等間隔に並んだオレンジ色の街灯がしっとりと川沿いの道を照らしている。さらに向こうは、穏やかな光でライトアップされた教会や美術館。その陰影に、しばし時の経つのを忘れてたたずむ。帰りたくないよ、そう思いながら、遠くの教会の鐘が零時を告げるのを聴いていた。

福永安芸

次回演奏会お知らせ : 芦屋室内合奏団 第35回定期演奏会
2001年11月25日(日) 13:00～ 神戸朝日ホール